

正尊寺門信徒会報

平成29年9月発行

第61号

正尊寺だより

発行：岐阜県本巣市曾井中島 1592 正尊寺 Tel 0581-34-2018



盆提灯で飾られた法縁廟



法要前法縁廟でのお焼香



雨よけの傘もセットされました



名簿を供えての法縁廟総盆法要

法縁廟総盆経厳修

二月に門徒みんなのお墓『法縁廟』の落慶と納骨始めの法要を勤め半年、門徒関係の遺骨一五体と予約一二体が納められました。

それをご縁に、今年から孟蘭盆会を一座増やし、法縁廟のお盆参り法要を兼ねて二日間のお勤めになりました。芝生も生えそろう、ステンポールを立て、美濃地方のお盆墓地の風物、紅白チョウチンもお供えて段取りをしました。前日からあいにくの雨が降りはじめました。当日は雨の中でもお焼香ができるようにと大型パラソルを設置し、チョウチンの火が消えないようにビニール傘も立て法要に臨みました。

法要の始まる時間は雨間となり、参詣者がスイレン咲く池の橋をわたり、お焼香の長い列ができていました。

この日納骨の方も有り、遺骨を納めたあとには、備え付けの納骨者名簿をお内陣阿弥陀様の前に奉呈し、お勤めが始まり、勤行の中お焼香も全員してもらいました。

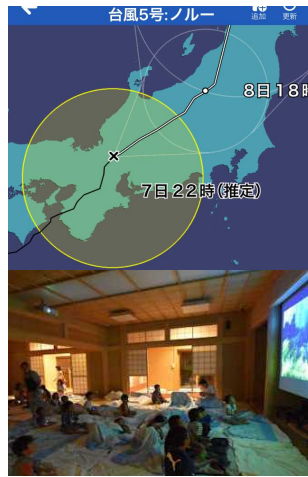
お勤めのあとは、龍谷大学教授の葛野洋明先生を講師に招き二席の法話です。当日は法縁廟に置かれた石碑に刻んである『俱会一処』という阿弥陀經の言葉の意味と置かれてある意義を易しくお話して頂きました。

参詣者の中には法縁廟のご縁で正尊寺門徒となり、お子さまを連れての参拝家族も有り、有りがたいお盆会法座となりました。

来年からも孟蘭盆会は八月十六・十七日の二日間厳修します、法縁廟には正尊寺歴代住職・坊守も納まっています、納骨の有無に関係なくお参りして頂いてかまいません、ぜひ来年はご予約にお入れ下さい。

夏の行事報告

今年の八月は日照時間短く雨がよく降りました、正尊寺夏行事は雨や台風で一喜一憂しましたが、予定通り全ての行事賑やかに開催されました。八月七・八日の**お泊りキッズサンガ**は台風五号の直撃で、暴風警報のまっ只中、四十五名の子ども達、庫裡広間に布団敷いて、デイズニー映画『モアナ』を見ながら、やすらかにお眠りでした。



台風は子ども達が寝ている未明に通過し、朝には雨も上がりプログラム通り二日目は、ラジオ体操から宝探



2日目解散前に撮った集合写真



し、かき氷に流しソーメンと子ども達大満足の二日間となりました。嵐のなか駆けつけ『宵あそび』のスタッフとして盛り上げて下さった仏教壮年会、食事の準備をして下さった婦人会の皆様ありがとうございました。

八月十三日**盆おどり大会**は、降雨の心配なく日曜日とも重なって近年一番の参加者で賑やかに開催できました。



この夏から門信徒会で行事ハッピーが製作され、初めて仏壮会メンバーがそれをまとい、スタッフとして働いてもらえました。夜の行事なのに水色で明るく、スタッフの回りには大勢人が集まっていました。



ハッピー姿の仏壮会員



この盆おどり大会は、毎年山の日の八月十一日準備がされます、鐘撞き堂裏に作られた倉庫から、鉄骨製の組み立て式ヤグラが運び出され、駐車場に立てられます。大勢載って踊っても、ビクともしないヤグラパーツは重く、この作業は仏壮会員の力を結集しなければ組み立てられません。



朝涼しい内にと、午前七時には集合し、半日かけて組み立てや飾り付けが完成しました。この日は毎年恒例の『夏おみがき』で、仏教婦人会が集まって仏具お磨きと清掃作業です。仏教婦人会の役員さんが、お斎用に作ったカレーを食べて解散、今年も立派なヤグラが建ちました。

美濃四十八座 真宗講座

真宗講座は毎回大勢のお参りで開催されています。昨春秋からの新たな表彰者をご紹介します。

一〇八回 金藤章受賞者

林すゑ子 三田畑
山本由隆 法林寺
青木岩男 辻屋
川崎賀代 尻毛

通算25名受賞

八〇回 銀藤章受賞者

青山久子 西川原
高田芳子 正木
国枝明 上長瀬

通算54名受賞

五〇回 青藤章受賞者

林せつ子 長良
高田昇 小西郷
加藤文男 西の門
松井乃里子 長瀬
驚見はる子 法林寺
山岡千鶴子 西川原

通算111名受賞

三〇回 黄藤章受賞者

加納時子 大野
山川孝 辻屋
高橋浩美 黒野
村瀬美子 下川原
高田玲治 浅木
安田洋子 大垣
馬場美由紀 曾我屋
林和子 大野
安田淳 大垣本今
安田富雄 〃
安田義明 〃
横山栄一 向野

一〇回 白藤章受賞者

安田輝美 大垣
馬場勝太郎 曾我屋
笠原正義 長良
通算206名受賞

村瀬功 北方
高橋和子 明音字
戸谷幸治 八代
堀義明 旦ノ島
三津清江 寺内
高井みづほ 岐阜岩井
大熊千津子 下真桑
河村英恵子 北野
森川英憲 宝珠
林君子 更地
長谷川千賀子 〃
川瀬昌昭 大垣本今
川瀬佐代子 〃
驚見芳郎 曾我屋

通算432名受賞
(受賞順 敬称略)

第七九回

真宗講座へのお誘い



今回は山口県からおいでの中島昭念先生、わかりやすくありがたいお話しです。

日時

十月二十三日(月)

午後二時。七時半

十三参り参加者募集



正尊寺 じゅうさんまい 十三参りは初参式の手形も返却し、参加者やご家族からは感動の喜びを頂いております。

来年もお彼岸の中日三月二十一日(祝)午後一時〜二時で行います。

ただし、式を厳かに行うために参加人数を制限し、**先着十名**で開催となりますので、お早めに申込ください。

正尊寺十三参りは小学校卒業時のお子さんなら男女を問いません。

参加費 三〇〇円

女子は着物を着ての参加という決まりはありませんが、干支一巡人生節目のお参りですから、普段着でなく小学校の卒業式にでる時の装いで出席してください。

なお、着物袴の貸衣装は衣装屋さん



「あきも」二部式の袴セットを着せてもらう参加者

あきも

検索

参加希望の方はお寺までご連絡を！

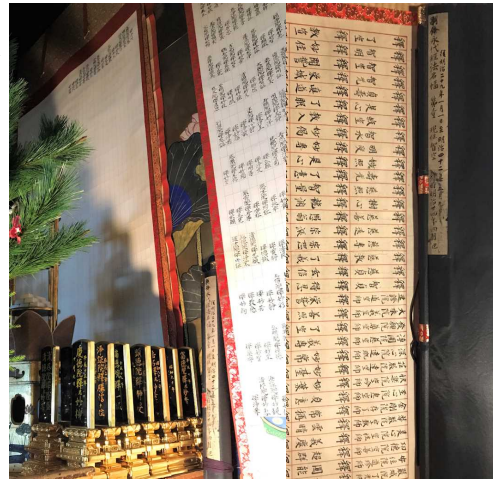
永代経厳修



袋田先生のお説経を熱心に聴く参詣者

暑さ寒さも彼岸まで、今期の彼岸永代経は九月二十三日から三日間、清々しい環境でお勤めしました。今期から法名軸も第十三号となり、余間には懸けきれず第一号は巻いたまま立て掛けてのとなりました。

永代経は亡き方を通し、永代長い年月お勤めが続けられ、同じお浄土で再び遇うことを子孫の人々と共有できる法要です。



正尊寺では明治二十九年一月一日濃尾大震災から四年二ヶ月、法名軸を作り亡き方の法名を書き入れ余間に奉懸し、震災復興の苦労と共に一二年勤め続けられてきました。

今回新たに作った第十三号の法名軸には十八名の法名が書き入れられ、余間のまん中に懸けられ、その横には第一号、机の上には別修の金位牌（本山本願寺に倣い第一種別修永代経懇志額三〇五以上ご進納の方には、金位牌を須弥壇裏に安置）も出してお勤めです。

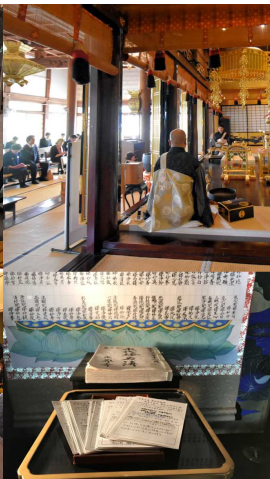
二十四日は二十五名の遺族が参拝され、開闢法要が勤められました。



写真は余間に懸けられた法名軸に書き入れられた親族の法名を住職の説明で確認する遺族のみなさん。

法要後庫裡仏間に用意された本膳のお齋に付き、住職からお酒の接待を受ける開闢参詣者の方々です。

法名軸前のお荘厳には、受付で預かりした案内葉書に書かれた、亡き方へのメッセージもお供えしてお勤め、一般参詣の皆様にもお焼香してもらおうになりました。一般のお参りの方々も二日間はお齋の準備



もして一日ゆっくりお参りしてもらいます。お供物は今年もチロルチョコレートを包んだ、子供さんにも喜んでもらえる正尊寺オリジナルです。



感謝

◎ 行事用長椅子杉天板

十二台分

東川原 浅川建設

浅川英高 様

寄進お願い

◎ 庫裡仏間用

親鸞聖人蓮如上人 連座像

制作費三十万円

庫裡での仏事で床の間に掛けるお軸ができました。

寄進人を募集しています。

